

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 指導教員による履修・研究指導の徹底	→履修相談期間設定・実施の有無、論文の中間発表・論文作成指導の回数	B	B			
2. シラバスと授業内容の整合化	→シラバスと授業内容の整合性に関する授業評価の有無、結果分析の有無	B	B			
3. 成績評価の厳格化	→成績評価基準の公開の有無	B	B			
4. 学生による授業評価を踏まえたカリキュラム改革	→学生による授業評価結果を踏まえた改革の有無	A	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 院生会に対してヒアリングを行い、研究演習を通じた指導体制について定期的に検証を行っている。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスは全科目に課している。シラバスに記載する項目としては授業の目的、授業内容および授業方法、成績評価方法および基準、学生による授業評価の方法を設けている。「学生による授業に関するアンケート」を実施し、学生からの授業評価を受けている。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) シラバスで成績評価の方法を明記するよう、大学院研究科委員会にて授業担当者に周知している。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学生への面談、ヒアリングを通じてカリキュラム改革の原案を作成し、研究科委員で審議の上、決定している。なお、目標の「4. 学生による授業評価を踏まえたカリキュラム改革」の進捗評価については、昨年度は1年間の進捗評価を行ったので「A」と評価したが、本年度は、到達年度である2013年度に対してどれだけ進んだかという進捗評価を行ったので「B」と評価した。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「現状の説明」6.3.3の記述「授業担当者に周知している」だけでは、シラバスに成績評価の方法が適切に明記されていることの証明にはなりません。また、シラバスの記載だけでは「成績評価と単位認定が適切に行なわれている」ことの証明にはなりませんので、この項目については、実際のシラバスや成績評価を踏まえた、より厳密な対応が望まれます。

【学内委員】

○教育方法については、設定した目標に向けての進展が期待されます。

○授業の展開や成績評価・単位認定については適切に運用されていると思われます。また教育成果についても定期的に検証し、その内容を改善に結びつけている点も評価できます。なお、小項目6.3.1の説明は、教育方針や学習指導に関する項目であるにもかかわらず、指導体制の評価について述べられています。再度ご検討ください。

○小項目6.3.1については、要素や大学基準協会の基盤評価などを参考に現状の説明をお願いします。

○小項目6.3.4については、大学基準協会は基盤評価を「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」としています。この点の記述が望まれます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・院生への学習指導は定期的に行われ、またその他シラバスの内容については院生から定期的に評価を受けています。この点に関しては大いに評価できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 6.3.1 複数指導教員（指導教員及び副指導教員）による指導を制度化（社会学研究科内規に定め）し、前期課程は「研究計画書（出願時）」及び「修士論文計画書（2年次）」、後期課程は「年次研究計画書（毎年次）」の提出を義務付け、この計画書に沿って、両指導教員により学位論文の執筆、学位論文作成に必要な授業科目の選択・単位修得（前期課程は指導教員に加えて副指導教員担当の研究演習も必修としている）を指導している。

6.3.4 学生への面談、ヒアリングを通じてカリキュラム改革の原案を作成し、研究科委員で審議の上、決定している。なお、目標の「4. 学生による授業評価を踏まえたカリキュラム改革」の進捗評価については、昨年度は1年間の進捗評価を行ったので「A」と評価したが、本年度は、到達年度である2013年度に対してどれだけ進んだかという進捗評価を行ったので「B」と評価した。

また、毎年度末に「研究成果発表会（後期課程学生は必須、前期課程学生は修士論文提出者で希望者）」を社会学研究科の全教員及び全大学院生に公開にて開催し、大学院生への研究成果発表の機会提供とともに、研究科の教育成果検証の機会とも位置づけ、その検証結果を大学院連絡会、研究科委員会にて議論のうえ、教育課程及び教育方法の改善につなげている。